

受 験 番 号		氏 名	
------------	--	-----	--

高度実践看護コース 解答用紙

問題 1

＊出題の意図:クリティカル領域で遭遇するクラッシュ症候群(圧挫傷)に伴う致死的電解質異常・ミオグロビン尿・急性腎障害・ショックなどの病態を総合的に判断する力を評価することを目的とする。また、救急搬入直後に必要な優先度の高い看護判断(緊急度評価・重症度評価)と初期対応を適切に選択・記述できる能力を測定する。

問 1

d

問 2

e

問 3

a

問 4

e

問 5

解答例

搬入後は高 K 血症と急性腎障害を予防するため、速やかな輸液管理と尿量の連続的観察を行う。循環動態を評価しつつ、ミオグロビン尿の有無を確認して腎血流を保つことが優先される。(84 文字)

クラッシュ損傷による高 K 血症とミオグロビン尿による急性腎障害を予防するため、早期の大量輸液投与と尿量・尿色の厳密な観察を行う。併せてバイタルと四肢の循環を評価し、腎血流維持とショック予防を図る看護が必要である。(114 文字)

受 験 番 号		氏 名	
------------	--	-----	--

高度実践看護コース 解答用紙

問題 2

＊出題の意図:クリティカル領域で遭遇するアナフィラキシーの早期認識、迅速な初期対応、治療優先順位の判断、輸液・薬剤選択、気道管理の重要性を理解しているかを評価する。特に、気道確保・酸素投与・アドレナリン投与を中心とした救急看護の優先度判断能力と、ショック悪化を防ぐための看護介入を記述できる力を測定する。

問 1

b	c
---	---

問 2

c

問 3

a	b
---	---

問 4

c

問 5

解答例

アナフィラキシーでは急速な気道浮腫と気管支攣縮により窒息の危険があるため、まず気道確保と高流量酸素投与を行う。また血管透過性亢進でショックが進行するため、循環動態を継続的に観察し、医師によるアドレナリン筋注を速やかに補助する。(113 文字)

急激な気道狭窄による低酸素血症を防ぐため、頭部後屈やエアウェイ挿入による気道確保と酸素投与を優先する。同時にショック進行を見越して血圧・脈拍・SpO₂を連続的に評価し、医師のアドレナリン投与や急速輸液を迅速に支援する。(106 文字)

受 験 番 号		氏 名	
------------	--	-----	--

高度実践看護コース 解答用紙

問題 3

＊出題の意図:ICN の最新定義を踏まえ、受験者が看護専門職としての価値観・理念をどの程度主体的に理解し、自身の経験と結びつけて言語化できるかを評価する。特に、実際の臨床での迷い・葛藤・判断を通して形成された個人の看護観の深まりや、思考のプロセスを内省的に表現できる能力を測定する。

評価のポイント:

設問の要求を理解し、看護で大切にしていることを明確に、自身の具体的経験を説明しつつ ICN の定義と関連付ける論述ができているか。

問題 4

＊出題の意図:問 1 は、与えられた情報のみから推計する能力をみる。明示されていない割合(女性の総人口)を自ら仮定し、妥当性を説明できるか数値を暗記していなくても、論理的推定(就業看護師での高い比率)ができるかを評価する。

問 2 は、看護職の年齢構造、キャリア発達、社会背景を多角的に説明する力、人口構造と労働力供給を関連付ける力、単一の理由ではなく「複数要因を統合して説明する能力」を重視し評価する。

問 1

解答例

看護師の大多数は女性であり、看護師の年齢分布は日本人女性の人口構造の影響を受けると推測される。そこで、女性人口に占める 45～49 歳の割合を手掛かりに、就業看護師数に当てはめて推計する。45～49 歳女性の日本人人口は 418 万人、日本人女性総人口約 6,400 万前後とすると、45～49 歳女性の構成比 $\div 418 \text{ 万人} \div 6,400 \text{ 万人} \div \text{約 } 6.5\%$ となる。看護師は一般女性人口よりもこの世代にやや厚みがあり、実際に最も多い年齢階層と予測され、6.5%を基礎に、就業看護師ではより高い比率(12～14%程度)で構成されると考えられ、人口構成との比較に基づき 13%で推計する。 $1,363,142 \text{ 人} \times 0.13 \div 177,000 \text{ 人}$ 程度と計算される。令和○年における 45～49 歳の就業看護師数は、約 18 万人程度と推計される。(18万人という数字が合っているかどうかは問わない。)

受 験 番 号		氏 名	
------------	--	-----	--

高度実践看護コース 解答用紙

問 2

解答例

45～49 歳の就業看護師数が最も多いのは、(1)この年代が看護師として経験・勤務形態とも安定した層で離職が少ないこと、(2)育児期を過ぎ就業継続がしやすいこと、(3)団塊ジュニア世代がこの階級に該当し、構造的に人数が多いこと、(4)日本人女性人口において 45～49 歳が比較的多いことなどによる。

以上